

令和 7 年度第 2 回  
宮城県保健環境センター評価委員会

日時	令和 7 年 10 月 22 日（水） 午後 1 時から午後 4 時 30 分まで
場所	保健環境センター大会議室及びオンライン



## 1 開 会

### 2 挨 拶（保健環境センター所長）

### 3 保健環境センター評価委員会条例第4条第2項の規定による会議成立の宣言

（委員6人出席（うち対面4人、オンライン2人））

## 4 議 事

### （1） 審議事項 ア 評価委員会の公開の可否について

議長（山田委員長）：議長を務めます山田です。どうぞよろしくお願いいたします。本日時間が長く予定されておりますのが、忌憚のない御意見をいただいて、まとめさせていただきます。御協力をお願いします。それでは、審議事項ア「評価委員会の公開の可否について」事務局から説明をお願いします。

事務局：（情報公開条例に基づく会議の公開について説明）

議長（山田委員長）：本委員会の公開の可否についてお諮りいたします。本委員会は公開することとしてよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

議長（山田委員長）：それでは、本委員会は公開することといたします。事務局から本日の傍聴者について報告をお願いします。

事務局：本日の傍聴者はございません。

議長（山田委員長）：ありがとうございました。

### （1） 審議事項 イ 令和7年度宮城県保健環境センター課題評価答申（案）について

議長（山田委員長）：それでは審議事項イ「令和7年度宮城県保健環境センター課題評価答申（案）について」にまいります。前回、知事から「宮城県保健環境センターの課題評価について」と題して諮問を受けております。今回の評価委員会では、諮問に対する答申をまとめていくこととなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、「令和7年度宮城県保健環境センター課題評価答申（案）について」事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料1、2、3に沿って説明）

議長（山田委員長）：ただいまの説明について、御質問がございましたら、お願いいたします。

＜質疑等なし＞

議長（山田委員長）：それでは次に答申（案）について、課題ごとに審議を進めます。

### 事前評価 整理番号 経-新Ⅰ「LC-MS/MS によるアレルゲンを含む食品の検査方法の検討」

議長（山田委員長）：事前評価 整理番号 経-新Ⅰ「LC-MS/MS によるアレルゲンを含む食品の検査

方法の検討」について、説明をお願いいたします。

**副所長兼企画総務部長：**（資料 2 及び 3 に沿って説明）

**議長（山田委員長）：**ありがとうございました。ただいまの説明に対し、御質問、御意見をお願いいたします。委員の皆様が御発言された内容については御確認いただいていると思いますので、改めて今後の対応についての精査も大事ですけれども、頂いた意見、質問について内容がまとめられているかどうか、ニュアンスがずれていないかどうかの御確認をいただければと思っております。それでは、御質問、御意見がございましたらお願いします。オンラインで御参加の委員はいかがでしょうか。会場の皆さんいかがでしょう。御意見ありましたらお願いします。

＜質疑・修正意見等なし＞

**議長（山田委員長）：**修正意見がありませんでしたので、「LC-MS/MS によるアレルゲンを含む食品の検査方法の検討」に係る評価答申案については、修正すべき点が無かったので原案を承認するというところでよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

**議長（山田委員長）：**それでは、そのように決定いたします。ありがとうございました。

#### **事前評価 整理番号 経－新 2「自動同定定量システム（AIQS-GC）による宮城県内河川水中の微量化学物質の実態調査」**

**議長（山田委員長）：**事前評価 整理番号 経－新 2「自動同定定量システム（AIQS-GC）による宮城県内河川水中の微量化学物質の実態調査」について、説明をお願いいたします。

**副所長兼企画総務部長：**（資料 2 及び 3 に沿って説明）

**議長（山田委員長）：**それでは、ただいまの説明に対して、御質問、御意見をお願いします。

**山田委員長：**私から一点だけ。語句の整理ですが、4 番目 2 行目に「濁度や懸濁物質が多い河川など」と記載されていますが、濁度も懸濁物質も同じ濁りを示す成分でもあるので、「濁度や」は削っていただいてもよろしいのかなと思いましたが、他の委員の皆様も異論がなければ整理させていただきたいと思いますがよろしいですか。

＜異議なし＞

**議長（山田委員長）：**この部分は、「濁度や」を削っていただくことにしたいと思います。軽微な修正ですけれども御確認いただければと思います。ほかはいかがでしょう。

＜質疑・修正意見等なし＞

**議長（山田委員長）：**それでは軽微な修正ではありますがこの点を御確認いただいて、修正されるということを含めて、原案を承認するというところでよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

**議長（山田委員長）：**それでは、そのように決定いたします。

#### **事後評価 整理番号 経－終 1「流入下水中ウイルス遺伝子の高感度精製法の導入と呼吸器系ウイ**

### ルス遺伝子濃度推移の把握」

議長（山田委員長）：事後評価 整理番号 経－終１「流入下水中ウイルス遺伝子の高感度精製法の導入と呼吸器系ウイルス遺伝子濃度推移の把握」について、説明をお願いいたします。

副所長兼企画総務部長：（資料２及び３に沿って説明）

議長（山田委員長）：それでは、ただいまの説明に対し、御質問、御意見をいただきたいと思います。

斉藤委員：日本語の問題なのですけれども、５番「得られた知見は県民や医療機関への行動促進」というのが、県民への行動促進というのはちょっと難しいかなと思うのですけれども、原文は「県民や医療機関に対して、今後の感染予防に向けた行動」と書いてあるので、もう少し追記されたほうがいいかなと思いますが、いかがでしょうか。

副所長兼企画総務部長：頂いた御意見を基に語句を追加するような形で修文をはかりたいと思いますがよろしいでしょうか。

斉藤委員：よろしくをお願いいたします。

議長（山田委員長）：そうですね、ここだけ読むと意味が少し通じにくい印象を受けました。事務局で補足説明を入れていただくということで修正をお願いします。ほかいかがでしょうか。

＜質疑・修正意見等なし＞

議長（山田委員長）：それでは「流入下水中ウイルス遺伝子の高感度精製法の導入と呼吸器系ウイルス遺伝子濃度推移の把握」に係る評価答申案については、先ほどの御指摘の点、評価の５番目「得られた知見は県民や医療機関への行動促進や感染予防策に役立つため」の一文を頂いた意見の意図にそうように、少し補足説明を加えていただいて、修正をするということを踏まえて、原案を修正いただくということで、承認したいと思いますがいかがでしょうか。

＜異議なし＞

議長（山田委員長）：それでは、そのように決定いたします。

### 事後評価 整理番号 経－終２「食品中高極性農薬の分析法開発及び残留実態調査」

議長（山田委員長）：事後評価 整理番号 経－終２「食品中高極性農薬の分析法開発及び残留実態調査」について、説明をお願いいたします。

副所長兼企画総務部長：（資料２及び３に沿って説明）

議長（山田委員長）：それでは、ただいまの説明に対し、御質問、御意見をいただきたいと思います。

＜質疑・修正意見等なし＞

議長（山田委員長）：それでは「食品中高極性農薬の分析法開発及び残留実態調査」に係る評価答申案について、修正すべき点が無かったので原案を承認するという事でよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

議長（山田委員長）：それでは、そのように決定いたします。

### 事後評価 整理番号 経－終３「宮城県における PM2.5 高濃度予測時の成分分析」

議長（山田委員長）：事後評価 整理番号 経－終3「宮城県におけるPM2.5 高濃度予測時の成分分析」について、説明をお願いいたします。

副所長兼企画総務部長：（資料2及び3に沿って説明）

議長（山田委員長）：それでは、ただいまの説明に対し、御質問、御意見をいただきたいと思います。

＜質疑・修正意見等なし＞

議長（山田委員長）：それでは「宮城県におけるPM2.5 高濃度予測時の成分分析」に係る評価答申案については、修正すべき点が無かったので、原案を承認するという事でよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

議長（山田委員長）：それでは、そのように決定いたします。

議長（山田委員長）：これまでの審議を踏まえまして、課題評価答申をまとめることとなりますが、今後の流れを確認いたしますので、資料1の裏面「今後の流れ」を御覧ください。2番目の項目ですが、課題評価答申最終案を本日の審議を踏まえまして、事務局で調製いただきます。その次、3番目の項目では、委員会として最終案を確認することとなりますので、最終案の確認方法についてお諮りしたいと思います。本日の審議では資料2の課題評価答申案から軽微な修正が2点ございましたけれども、特に大きな修正はないと思いますので、事務局に調製いただいた最終案の確認については委員長である私に一任というかたちで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

議長（山田委員長）：最終案を私のほうで一任をさせていただいて、確認をしたいと思います。そのように取扱いをするということで承認をいただきました。ありがとうございました。

#### （1） 審議事項 ウ 令和7年度宮城県保健環境センター機関評価調書等について

議長（山田委員長）：審議事項ウ「令和7年度宮城県保健環境センター機関評価調書等について」でございします。本日付けて本委員会宛てに知事から諮問を受けている案件となります。はじめに、事務局から評価の進め方について説明をお願いいたします。

事務局：（資料4及び5に沿って説明）

議長（山田委員長）：ただいまの説明について、御意見、御質問等あれば御発言をお願いします。

斉藤委員：次回12月17日の評価委員会は、何時からになるか確認してもいいでしょうか。

事務局：9時からです。

議長（山田委員長）：ほかはいかがでしょうか。

＜質疑・修正意見等なし＞

議長（山田委員長）：特に無いようですので、今回の機関評価については、こちらに記載されたとおりに進めることとし、議事を進めさせていただきます。

議長（山田委員長）：それでは、機関評価調書及び機関評価自己評価票等について、説明をお願いします。

所長：（資料6及び7に沿って説明）

**議長（山田委員長）：**ありがとうございました。ただいま説明いただきました機関評価調書及び機関評価自己評価票について、委員の皆様から御意見、御質問を伺います。本日の委員会が終わった後、期日までに評価をしていただくことになります。資料だけでは伺えない部分について、委員会の中で御質問いただければ回答も含めて早い段階で情報収集できると思いますので、忌憚なく御質問いただければと思います。いかがでしょうか。オンラインで御参加の委員の方々については、挙手ボタンで知らせていただければ指名させていただきます。

**佐藤委員：**組織運営体制について職員数、予算確保は適切かとあるが、なかなかこれを評価するのは難しく内部評価するにあたって非常に苦勞されたのではないかなと思います。このセンターの目的を達成するためには、当然大勢技術者がいれば越したことはなく、予算もそれに応じてあれば問題はないと思うのですけれども、なかなかその線引きが難しいのではないのかなと思われるます。現場の技術者の皆さんのこれまでの積み重ねた技術などによって培われているところがいっぱいあると思います。したがって、人数だけ、また予算が多ければいいということにはならないと思います。これを評価する方法が非常に難しいのですけれども、過去の評価時に他県の情報はどのようなのか、例えば人口的なことを踏まえて同じ程度の研究機関と比較するような情報があれば評価もやり易いのかなと思います。内部評価にあたってそのような情報を活用されていたのかどうかお伺いしたいと思いました。

**所長：**今回の機関評価の内部評価にあたっては、特段他県の状況との比較は行っておりません。他の地方衛生研究所や環境研究所と、人員配置、組織体制についてお互い情報交換はしており、参考にしているところはあるかと思えます。ただ、人口規模や行政事情などによってだいぶ変わってきて、北海道東北新潟ブロックのそれぞれの県によって考え方が変わってくると思いますので、なかなか単純比較はできないと思うのですけれども、同規模ぐらいの県の状況なども少し参考にしてみたいと考えております。

**佐藤委員：**一番センターに求められるものというのは、日常的なモニタリングの調査や行政検査と危機管理時の対応ということになると思います。最近であれば新型コロナということになるかと思えます。その際に苦勞されたこととか、過去にセンターでウイルスの検査を担当された方で、県内の別のセクションに人事異動された方とかに声かけして、お手伝いをいただくとか聞いていたのですけれども、そういった危機管理にあたって人事はこのセンターだけで考えるものではなくて、県全体の中で色々な技術を習得されている技術職の把握をやっているのかどうかと。例えば先ほど何年経った方が何人いるということでリスト化されていましたが、それは同じセクションに何年いたかということなのか、過去遡って過去にどこにいたというのをプラスして集計された数値なのか、細かいですけれどもそういった評価もあっていいのかなという気がしたのですけれども、その辺はどうお考えなのかお伺いしたいなと思いました。

**所長：**1点目の御質問について、危機管理は公的試験研究機関として非常に重要なところだと考えております。ただ一方で、行政のスリム化、効率化も考えなければいけないということで、常時、微生物部に十分な人員を配置するというのはなかなか現実的には難しいかなと考えております。そ

ういったこともありまして、令和 6 年に健康危機対処計画を作り、平時において、いざ感染爆発が起きた時にどういった体制で検査をしていくのかという体制整備の考え方を整理しております。その中で、過去に微生物部に在籍している経験者をリストアップして、現在ですと 35 名の名簿を備えているというような状況になっております。いざ健康危機が起きた時には、当然ながらこういった経験者にも入っていただいて、対応するということを考えております。また、調書に書いてある在籍年数の考え方については、事務局から回答させていただきます。

**事務局：**通算と書いてあるので過去も含めてだと思いますが、確認させていただきます。

**佐藤委員：**細かいと言いますけど、例えば微生物の仕事をした方が理化学検査をやるとかっていうも含まれているのかどうかということです。

**事務局：**確認して後日回答させていただきます。

**議長（山田委員長）：**よろしいでしょうか。この場合は、評価を最終的にはまとめていきますので、事務局サイドは、その質問に対して何か回答しなくてはいけないというところまではあまり思わずに、事実関係とか情報提供に留めてよろしいかと思います。それでは、ほかの委員から何か御指摘、御質問がございましたらお願いします。

**村田副委員長：**今、体制の話が出たので、私からも。前の機関評価の時にも 3 年ぐらいで基本的には県の人は変わってしまうので継続性がという話をされていたので、もうちょっとなんとかならないのかというようなことを言っていたのですけれども。人数比や年代比というのは 1 年や 2 年で変えられるものではないので、長期的なプランを考えていかなきゃいけないのですけれども、そういうこと考えても職員がどんどん入れ替わって、うまく引き継いで 10 年後にはこういう構成にしたいみたいなプランを立てていらっしゃるのかどうかを聞きたいです。

**所長：**本来であれば先生がおっしゃるように 10 年後ぐらいから逆算して現状はこうで、5 年後はこうあるべきというプランを立てるべきところではあるのですが、できている部分となかなかできていない部分とがあると思っております。

**村田副委員長：**やはり、どんどん人が入れ替わるとマネジメントする方も、前の人は何を考えていたのかが伝わらないとどうにもならないので、特にこういう人事の話だと定年で辞めるというのも含めて、どう変わっていくかは 10 年、15 年先を見て考えないといけないと思いますので、ぜひ計画を作って継承することをしていただきたいと思います。それから、この 1 つとして自己評価票 2 ページの最後の丸に書いてあるように、3 年ぐらいで交代するのを技術職員とか研究職員とかを 5 年ぐらいに伸ばせないかと考えているという、これもそういうことをやったらどうですかというのを以前言ったのもあるのですけれども、これはまだ実現していないのですよね。実現可能性など、聞きたいです。

**所長：**研究施設としての採用ではなく、行政機関としての採用であり、本庁の職員、私たちのような技術職員ですと保健所への人員張り付けなどトータルで人事関係が検討されるので、こちらの要望が必ずしも通るわけではないという現状があるということです。ただやはり試験研究機関の特性として、ある程度長い期間職員を張り付けていただかないと技術を身に付けるだけでもそれ



なりの時間がいりますので、先ほどの危機管理じゃないですけど、いざという時に対応できるだけの体制を組むためにもある程度長く、具体的には 5 年程度は置いていただけないかというような、あくまで要望ですけど、伝えている状況です。

**村田副委員長：**要望はしているけど、どうなるかわからない感じなのかなと思うのですが、今おっしゃられたように、継承とかそういうこと考えると 3 年でコロコロ変わっていくと、慣れた頃になくなってしまうみたいな、僕らもそうなのですけども、そういうことにならないように、普通のほかの県の職場とは違う特殊性みたいなものは、ちゃんと主張していかないといけないと思いますので、是非よろしくをお願いします。そのほかいくつかあるのですけれども、今日も見学させていただいた分庁舎は、昭和 62 年建築ということなので、40 年近く経っているかと思うのですが、耐用年数は何年に設定されているのですか。

**所長：**通常コンクリート建物は 50 年と言われているのですが、県の方針としてはその 3 割増の 65 年を見ているということになっています。

**村田副委員長：**今日も見て色々と補修されてだいぶ綺麗になっていたのも、しばらく使うつもりでやっているのだらうなと思っていたのですが、あと 20 年程度使い続けるというつもりなのですね。基本的には、建替を検討するというよりは、補修しながらしばらく使い続けるという方向ですかね。

**所長：**県の方針として、公共施設の長寿命化ということで、65 年使うことを前提に色々な改修工事などを行っているというのが現状になっています。

**村田副委員長：**最初に言おうと思っていたのですが、基本的には皆さん非常に頑張っていらっしゃるという印象で、前回とかその前に色々コメントしたことにもかなり対応されていたりしていいなと思っています。例えば、装置は全部買うのではなくて、リースも使ったらどうだということに対しても、今けっこうな数をリースにして費用を抑えられているので、そういうところはいいかなと思いました。ほかに環境情報センターについて、難しいなと思うのですけれども、パンフレットを見ると、平日しか開いていないですよ。夏休みとか子どもが休みの時は別として、僕らでも土日開いていないなら来れないって、その時点でここはダメだって思って終わるので、平日の昼間にイベントを起こして来てくれる人はかなり限られるので、例えば月に 1 回ぐらい土曜日に開館日を作るとか、もちろんその分平日に担当の方には休んでいただくということは必要なのですが、そういうことをしないとなかなか人は来ないのではないかなと。ただでさえ、ちょっと不便なところなので来にくいという話は前もしたのですけれども、それで平日の昼間しかやっていませんと言われると、なかなか使いづらいというがあるので、情報発信という意味では時々でも週末の土曜日は開いているみたいな工夫は可能ですか。

**所長：**公共施設であっても、週末開けているところもあるかと思いますけれども、環境情報センターが可能かどうかと言われますと、同様の施設で土日を開けているというのは知る得る限りではなかなかないので難しいかなとも思うところではあります。現在、そもそも環境情報センターのあり方も含めた環境教育のあり方全体を本庁側と話し合っておりまして、もっと総合的に環境情報

センターだけのあり方というよりも環境教育としてどうあるべきかという大きい観点から考えだす時期が来ているのかなと、今まさに本庁側とやりとりをして、議論をしているところです。

**村田副委員長：**利用者の利便性からするとやっぱり土日全くやってないっていうのはなかなか難しいと思うので、もし本庁側とそういう話が出てくるのであれば、もちろん勤務時間を調整することになりますが、やってみてもいいかなと思いました。また、調書 54 ページで、ホームページのアクセス数が令和 4 年度 8000 件だったのが令和 5 年で 1 万 6000 件と 2 倍になって、去年も 1 万 5000 件ぐらいなのですが、これ急に増えたのは何か理由があるのでしょうか。

**事務局：**ホームページを令和 4 年から令和 5 年にかけて特に変えたところはないので、集計の仕方が変わったからだと思っております。

**村田副委員長：**実際のアクセスは変わってないのですか。

**事務局：**本庁側から集計方法が変わったと出ていたので、それじゃないかと考えています。

**村田副委員長：**本庁でやっているから、こっちでは知らないっていうことですか。

**事務局：**そうです。本庁のマニュアルでの数え方になるので。

**村田副委員長：**分かりました。特に何か頑張ったのでとかそういうことではないですね。

**事務局：**何か新しくページを増やしたとかという話ではないです。

**村田副委員長：**さっきの話と違って、土日関係なくコンピューターは動いてくれるし、いつでもアクセスできるので、面白い情報があってアクセスが増えるのであれば、色々な情報提供に役立つのですけど。了解しました。

**柳沼委員：**調査研究の調査研究は適切に行われているかという部分についてですが、研究計画を立案する時点で、外部の研究機関の有識者に相談したりはしないのでしょうか。

**所長：**保健環境センターでの研究にもいくつか種類があって、共同研究もかなりあるのですけれども、課題評価にけるものについては、本庁側の行政ニーズとして、こういう調査研究をして欲しいというものも把握して研究をしているのですが、各々の繋がりの中で専門の先生にアドバイスいただきながらというのはあるとは思いますが、申し訳ないですが、どういうケースでどういうアドバイスを得ているかというのは、今はちょっと分かりません。

**議長（山田委員長）：**オンラインで参加の委員から何か御指摘、御質問がございましたらお願いします。

**斉藤委員：**なかなか難しい質問かもしれませんが、自己評価票 10 ページに書かれている 20 代、30 代の方々の応募がなかなか少なく、それに加えて離職者が多いということなのですからけれども、その理由に関して検討があるのかということと、それに続いて人材の育成プランを作成していることですので、指導体制などを改善することによって、20 代、30 代の離職者の不足を担っているのか、不足しないように予防的に人材育成に務めていらっしゃるのか、前後関係を説明していただければと思います。

**所長：**実は、この研究機関だけではなく県職員として離職者が多くなっており、それから県職員の希望者が減っているということが、今、県庁の大きな課題となっております。どうしても技術を持っ

ている方は離職しやすいという傾向にありますので、離職者は技術職員の比率が多くなってしま  
うのかなと思うところではあるのですが、県をあげて人材育成プランの作成や職場環境の改善や  
コミュニケーションの向上など、昨年あたりから色々な手を打って、働きやすい環境作りを行っ  
ているところです。離職者にもいろんな理由があるかと思うのですが、やはり県職員とし  
て採用されている以上、ずっとこの試験研究機関にいられるわけではなく、保健所などの地方機  
関であったり、本庁であったり行き来もあって、どうしてもその辺のタイミングで、イメージが  
違う、ズレがあるというところもあるのだらうなと考えておりますが、そこはやはり行政機関で  
ある試験研究機関としては、非常に悩みどころで、なかなか難しい課題だなと考えております。

**斉藤委員：**丁寧に御説明いただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

**議長（山田委員長）：**ありがとうございます。菰田委員は何かありますか。

**菰田委員：**特になのですが、今回記入する材料は頂いている内部評価を見ながらということにな  
ろうかなと思っていたのですが、難しいなという印象を受けていました。コメントだけで  
す。

**議長（山田委員長）：**ありがとうございます。また何かありましたら御発言いただければと思います。

**佐藤委員：**調書 75 ページから調査研究の中で分けられていまして、経常研究や助成研究など書い  
てあるのですが、共同研究について予算や人的な労力をどのくらい使ったかは集計されて  
いるのでしょうか。

**所長：**労力や予算を数的に何割というのは、特別出していないです。

**佐藤委員：**共同研究は当然ですが、相手側がやる仕事は、相手の方が負担するというやり方で  
すか。

**所長：**基本的にはそうなりますね。

**佐藤委員：**先ほど途中で辞められる方もいるという話もありましたけど、こういう評価委員会の中  
で色々意見を言うことが、研究者（職員）の方々へのプレッシャーになっているのではないかと、  
反省気味に思っています。もう一つお伺いしたいのは、42 ページに倫理審査体制というのが令和  
5 年に新たに要綱が作られたと書いてありますけど、何か前にそういった事象というか、国の法令  
ができたなどということがきっかけなののでしょうか。

**所長：**国で倫理審査に関して示しているものありますし、前回の機関評価でも御指摘をいただい  
いたところでもありましたので、明確にするということで作っています。

**佐藤委員：**県内で何かが発生したわけではないということですね。

**所長：**不適切な事象が発生したから作ったとか、そういうことではありません。

**山田委員長：**私から何点か確認をさせてください。先ほど健康管理という観点で、センターの業務  
は、大変さももちろんあるかと思いますが。本庁からいらしてまた戻られると色々負担になっ  
ている部分や、やりがいとか、色々お感じになりながら業務を続けていらっしゃると思うのです  
けれども、体の健康チェックは定期的にされていると思うのですが、ストレスチェックの  
ような体制はどのように整っているのかお伺いしたいです。2 つ目は、研究倫理や情報のセキュリ

ティとして技術職員含めて定期的な学習あるいはチェックがされているかどうか。3 番目は機器類のリースが比較的進んだと思っているのですが、結果として新規に機材を購入するよりも予算の削減に繋がっているのかどうか、その辺のチェックがどのようにされているのかということ、最後人材の話が色々御意見が出ていましたが、ルーチンで色々な検査業務を抱えていらっしゃるって、中には民間の事業者に委託してもいいような内容もあるのかなと思います、一方で技術職員の方々には日頃から新たな課題に向けた研究の立案や実施あるいは技術習得の機会提供などそういうところにしっかりと時間を割いていただいて、何かルーチンとは違う業務で、その能力を発揮していただくような準備をしておいていただくことが必要ですし、そのための時間の確保というのは、すごく大事だと思っているのですね。そういった場合にどうやったら時間を稼げるのかと考えると、やっぱりルーチン業務のある程度の部分を割いて、民間に委託することで何とか確保できないのかとか、人員が十分充足できる余力がなければ、民間人材の活用というのも一つの手としてあるのだらうと思うのですけれども、そのような対応について何か御検討されたかというのを伺いしたいと思います。

**所長:** まず、ストレスチェックは法令に基づき必ずやらなければいけないとあったかと思いますが、定型のストレスチェックは当然やるとして、今どの職場でも、メンタルヘルスが非常に大事になっているかと思うので、定期的に面談という形で、その方の健康状態を確認することはやっております。それから研究倫理については、年度当初に動画にはなるのですけれども、研修という形で職員に受講させるということをやっております。それから、リースでの予算削減ですが、今資料はありませんが、リースにすると保守などの面である程度融通が利く部分もありますので、購入して故障した時に修理する費用も含めてトータルで見ても何ともメリットが出ているかどうか分からないので、そういったものも含めて調べてみたいと思います。民間人材の活用についてですが、行政機関として常に業務の見直しをはからなければいけないと思っており、先ほど見ていただいたダイオキシン棟も、民間でも十分分析ができてくるようになったというところで、老朽化もありましたけれども、ダイオキシン類検査については令和 3 年度から外注にしているというところもありますし、航空機騒音のデータ解析なども全面的に外に出すわけにはいかないのですが、私どもは行政機関として判断しなければいけないとこもありますので、機械的に測定するところは外注するとか、時代に合った、民間の状況も確認しながら、出せるものは出す。それで先生がおっしゃるように行政機関である研究機関であり、行政の課題解決にどんなことが必要なのかを考えるというのは非常に重要だと思っていますので、そういった外注もしながら、情報の解析に専念するとか、そういったことはやっているところではあります。

**山田委員長:** 評価の立場で言うと、結果的にセンターの果たすべき役割がしっかりと、表に見える形になっていればいいので、抱えている課題を 1 つずつ解決していくにしても、このセンターだけで解決できない問題については是非本庁と調整しながら進めていただきたいなと思っております。

**議長 (山田委員長):** ほかに委員の皆さんから何かございますでしょうか。

**山田委員長:** 私から追加ですいません。今日見学させていただいて設備のリースあるいは薬品の鍵

の管理等がしっかりされているように拝聴しましたけれども、外部から保守点検とかあるいは何か試料を持ち込まれるような時とか、色々と職員以外の人がこのセンターを出入りするにあたって、セキュリティ上どのような管理をされているのか確認したいです。

**副所長兼企画総務部長：**基本的に施錠しているので通常は正面の入り口からしか入れないことになっておりまして、正面の入り口から入っていただきますと、必ず窓口で入館するために記名などをさせていただくことになっております。それ以外にも例えば分庁舎は入退室を記名で管理というようにしておりまして、さらにその中の管理区域というところについても同じように入退室の管理をしているので基本的にフリーで外部の方が入ることはないような体制を取っております。

**山田委員長：**大丈夫だと思うのですが、やはり懸念するのは例えば盗難とか、特に化学物質が不容易にテーブルに置いてあって、それがいつの間にか無くなったとか、しっかり管理されているのは前提だとしても、そういうリスクを負う外部の方の出入りというのが制限されているのだろうかということの確認でした。2つ目は、気候変動適応センターについて確認したいのですが、今回情報はあまりなかったのですが、温暖化防止というのは例えば県庁であろうが一般市民、県民であろうが、同じ方向を向いて取り組むことが多いと思うのですが、適応策とよく言われている内容を見ていると、県民、市民というよりは、どちらかというところどのような事業がこれから必要であるか、どのようなサービスや商品あるいはインフラ整備が必要なのかというようにみていくと、どちらかというところ事業者対応がメインになるようなセンター業務なのかなと感じます。今までの運営の中で例えば一般企業の方々が温暖化防止あるいは今後の適応について何かセンターに相談されたりとか、あるいは情報提供を求められたりとか、あるいは普段のセンターがどのようなニーズに対しての発信をされているのかを簡単に教えていただけますか。

**所長：**まさにそこが非常に悩みどころではあります。気候変動適応法ができてセンターを作るということになって、センターの看板までは掲げたのですが、それ以降、環境生活部に属する気候変動適応センターとして何が必要かというところが課題になっています。実は、今看板がかかっているだけで実際に研究や発信をするというところがまだまだ足りない部分があり、今年度から国立環境研究所と暑熱と健康について共同研究に入れさせていただいて、国や他県と情報共有をはかるということをやっております。気候変動については、やはり一次産業である農業や水産業、また、防災、局地的な雨による水害とか、そういったもので影響が大きいのかなと考えておりまして、場所長会議という農業園芸総合研究所、コメの研究をしている古川農業試験場、水産技術総合センター、林業技術総合センターなどの各所長で情報交換するような場があります。そこで情報交換していますが、やはり今は環境部門である私どもと、特に一次産業の研究所とはなかなか噛み合うものがなくて、それぞれの研究所がそれぞれの研究をしています。特に、今お米の問題で高温に適する米の研究というのは一生懸命農業試験場でやっています。農業園芸総合研究所あたりだと、花の色付きが悪くなって花き栽培がうまくいかないとか、それを改善するためにどうしようとか、適正な栽培方法はどうかというのは独自にやっていますし、水産業はかなり深刻で海水温がかなり上がってしまって、今まで採れていた魚種が変わってしまって、対応する

ための色々な研究をしているというところで、今はこちらから研究成果を発信してそれを利用してもらうとか、またはニーズのある研究をうちでやって、お返しするというのではなく、どちらかという情報共有、意見交換に留まっているというのが現状になっています。

**山田委員長：**それはよく分かりますが、何か保健環境センターで独自の研究とかあるいは情報発信して欲しいということではなくて、県内にある適応策の色々な事業やあるいはこれからの見通しについて、どういう情報があるのかというのは集約して、センターとして県民に向けて発信する、あるいは事業者に向けて発信する、促すとかですね。やっぱりこれからそういう機能が必要なかなと思いますので、情報共有だけじゃなくて、是非その情報を活かしていただくような仕組みを早期に整備していただければと思いました。

**議長（山田委員長）：**ほかの皆様から何か御意見がございましたらお願いします。

**山田委員長：**水環境部を見学させてもらった時に、グループの中でローテーションを組みながら色々と作業されていると、おそらく同じような体制をほかの部署でもされているのだと思うのですが、熟練者とまだ経験値が低くはないにしても、個々の検査能力にどのぐらいの差があるのか、要するに同一試料に対しての検査レベルが、ある程度一定に維持されているのかどうか、そのようなチェックはどのようにされているのか教えていただけますか。

**研究管理監兼水環境部長：**水環境部の話になりますが、確かに水環境部におきましても5年以上の経験がある者から、1年目の職員もそれぞれ技術的には全然違っているというところがあります。どのようにして平準化するかということなのですけれども、検査データが正確かというところについては、回収率やばらつきなどが確実に問題ないかというところについて内部精度管理で毎回確認しております。また年に1回外部精度管理というのも実施しておりまして、その精度で間違いがないかということも合わせて検証しているというところなんです。今日説明があったと思うのですけれども、品質管委員会というところがございます、信頼性確保部門と検査部門の2つの部門に分かれておりまして、信頼性確保部門のチェックも受けて、適正に検査されているかどうかを確認していくというところで、技術のある人も、ない人も、きちんとデータが出ているかを見ているというところです。

**山田委員長：**我々に提供される資料やデータが膨大になってもしょうがないのですけれども、むしろそういう情報が欲しいです。実際に業務に当たられている方々の精度管理がどのようにされているのかというのが、何か根拠立てて、御紹介いただけると分かりやすかったかなと思いました。

**佐藤委員：**33ページにセンター主催の研修会が記載されていて、先ほど大気環境部で保健所とか市町村の方々に騒音の研修会をやっているという話がありましたが、ここには載っていない項目ですか。

**所長：**33ページの記載は、センター職員向けのものになっています。

**佐藤委員：**外部向けの研修会というのは別ですか。

**副所長兼大気環境部長：**市町村ですと、騒音、振動、悪臭関係の担当者向け研修会は年2回やっておりまして、春は基礎研修ということで、こちらを会場にして講義と実習をしておりますし、秋は

その応用編ということで、実習をしています。そのほか、市町村での色々な苦情対応ということで、先日も振動の測定機をお貸しした事例がございましたけども、適宜測定についての助言を技術的なサポートとして行っているところです。

**微生物部長：**33 ページは、センター主催の研修会で主にコロナのヘルプで入ってもらった時に技術を習得してもらうために行ったものです。

**佐藤委員：**今お話があった大気環境部の騒音関係についての研修会は、58 ページの 1 と 7 ということですね。

**議長（山田委員長）：**ほかよろしいでしょうか。いかがでしょうか。

**山田委員長：**質問の時間も限られてきていますが、私からも 1 点だけすみません。機関評価が今 3 年に 1 回ですね。設備、施設の更新計画あるいは実際の設置、人材の計画と実施されている対応状況、これが 3 年でみることができるといのがちょっと気になっていたところです。それを 5 年にしていいのか 6 年にしていいのかというのはちょっと分かりませんが、この機関評価の 3 年間という設定を今後何か変えろとか、あるいは今一度に 3 年に 1 回でやっているのを部分的に分けて 3 年毎、周期でいうと 6 年に 1 回の評価の体制に変えるのかとか何か御検討があるか教えていただけますか。

**副所長兼企画総務部長：**機関評価も含めて評価制度そのものを以前から効率的なやり方に向けた御助言をいただき、ちょっとずつ直してきているところなのですけども、さらに限られた人員の中でやっているというところも含めまして、効率化というところもありますし、今頂いたような評価のあり方として、ちゃんと評価するのであれば長い方がかえっていいのではという御意見もあろうかと思しますので、頂いた御意見も含めて評価制度の見直しというのを随時やっていきたいと思っておりましたので、参考にさせていただきながら検討して案ができましたらまた御相談させていただくということで考えております。

**山田委員長：**前回も参加された委員からも御指摘があったように、特に人材の件についてはなかなか意見を言ってもどう変わっていくのか、なんとなく見えてこないというのもありまして、機関評価をする上で、この 3 年間だとちょっと短いのかなという印象も受けていますから発言させていただきます。

**議長（山田委員長）：**オンラインで御参加の委員から御意見、御質問はございませんでしょうか。会場の委員の皆さんから何かございますか。時間をかけさせていただきましたけれども、機関評価の質疑応答については、以上とさせていただきたいと思ひます。繰り返しになりますが、令和 7 年度宮城県保健環境センター機関評価調書等についてに関する説明及び質疑を終了します。この後、各委員におかれましては機関評価票を作成していただくこととなりますが、事務局から説明がありました資料 4 評価委員会（機関評価）の進め方について及び資料 5 機関評価票の作成について、改めて御質問等あればお伺いしたいと思います。何かございますでしょうか。

<質疑等なし>

**議長（山田委員長）：**皆様をお願いなのですが、今回質問して御意見をされて、部分的には回

答がありました。回答があったから評価に書かなくてもいいということではないので、是非御指摘を意見としてその評価票には改めて書いていただいて、今後のセンターの運営や設備の充実に向けての参考になるように御意見をお示しいただければと思っております。それでは、御意見は特にないと受け止めまして、次の議題に移りたいと思います。

## **(2) その他**

**議長（山田委員長）：**議題の最後、その他ですが、全体を通じて委員の皆さまから御意見、御質問ございますでしょうか。

＜質疑等なし＞

**議長（山田委員長）：**ほかに事務局で用意しているものはございますでしょうか。

**事務局：**特にございません。

**議長（山田委員長）：**それでは、無いようですので、議事を終了し、以後の進行を事務局にお返しします。御協力ありがとうございました。

## **4 閉 会**